

2015年1月現在 神学生奨学金献金・会費の納入状況と、納入促進・期限内納入のお願い

地方連合名	神学生奨学金献金					連合会費				
	2015/1実績		前年同月		対前年額	2015/1実績		前年同月		対前年額
	金額	教会	金額	教会		金額	教会数	金額	教会	
北海道	426,102	10	341,392	9	84,710	42,000	5	73,500	5	-31,500
東北	748,999	11	748,148	17	851	82,500	10	80,000	12	2,500
北関東	1,730,695	15	1,619,520	17	111,175	208,500	12	255,000	13	-46,500
東京	2,550,888	29	2,560,225	30	-9,337	141,000	12	262,500	17	-121,500
神奈川	1,599,282	13	2,037,780	13	-438,498	190,500	9	196,500	9	-6,000
西関東	419,354	7	481,800	7	-62,446	43,500	5	57,000	7	-13,500
中部	710,932	9	731,635	9	-20,703	120,000	12	117,000	10	3,000
関西	615,070	16	740,682	19	-125,612	66,000	6	99,000	8	-33,000
中四国	749,818	15	710,720	15	39,098	54,000	8	109,500	11	-55,500
北九州	680,436	12	854,760	17	-174,324	93,000	8	114,000	10	-21,000
福岡	1,951,510	27	2,089,733	28	-138,223	208,500	19	234,000	18	-25,500
西九州	825,400	10	830,637	9	-5,237	25,500	5	36,000	4	-10,500
南九州	798,322	17	683,683	13	114,639	115,500	9	139,500	11	-24,000
個人団体等	1,017,680		431,001		586,679					
総計	14,824,488	191	14,861,716	203	-37,228	1,390,500	120	1,773,500	135	-383,000

いつも全国壮年会連合の活動にご理解とご支援を感謝申し上げます。  
2015年1月現在の「神学校献金(神学生奨学金献金)」と「壮年連合会費」の状況をお知らせいたします。ぜひ、お祈りに覚えてご協力ください。尚、期末に当たり、3月31日までに「ゆうちょ銀行」の所定口座に振込まれたものを計上することとなります。期限の厳守にもご協力いただきたく、合わせてお願い申し上げます。

2015年(第50回)全国壮年大会 in TOKYO (ご案内)

○開催日・場所	2015年8月21日(金) 東京都大田区産業プラザPIO(21日) 2015年8月22日(土) 大井バプテスト教会(22日)
○大会主題	『人と人とのつながり』
○大会聖句	「喜ぶ者と喜び、泣く者と共に泣きなさい」ローマ人への手紙12:15(口語訳)
○主題講師	賀来周一 師 (講師略歴)鹿兒島大学、立教大学大学院、日本ルーテル神学校、米国トリニティールーテル神学校卒業。日本福音ルーテル教会牧師として、京都賀茂川、東京、札幌、武蔵野教会を牧会。その後、ルーテル学院大学教授を経て、キリスト教カウンセリングセンター相談所長、2012年まで東京バプテスト神学校講師(牧会カウンセリング)。 現在:キリスト教カウンセリングセンター相談所長・理事長
○実行委員会	委員長:山田誠一(大井)、副委員長:坂口昌彦(目白ヶ丘)、鈴木武史(花野井) 事務局長:野口正俊(志村) 事務局:久場俊男(恵泉)、渡部富夫(常盤台) 広報宣伝:青柳 博(大泉)、佐藤洋二(栗ヶ沢) 会計:堤 秀幸(品川) 書記:中村 茂(調布) 準備のためにお祈りください。

会議報告

- ◇ 第3回役員会 2月7日(土)(於連合会議室) 出席者:役員・監査、規則改定委員長、事務局員 8名
  - 壮年会連合規約、規約細則、奨学金規程などの改正案に対する、規則改定委員からの検討案について意見交換を行なった。これを基にさらに規則改定委員で成文化を進めていただく。
  - 伝道者養成への取組みについて意見交換を行なった。
  - 今年度の神学校週間の取組みや代表者会議の審議案件について意見交換を行なった。
- ◇ 第3回奨学金委員会 2月14日(土)(於連合会議室) 出席者:委員、事務局員 8名
  - 2015年度新入学生に対する1種、2種奨学金貸与の審査(対象12名)
  - 貸与奨学金償却の審査(対象4名)
  - 奨学金規程等の改定について検討

日本バプテスト連合全国壮年会連合  
〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4  
事務局執務時間:月、水、金 10:00 ~ 16:00  
☎fax:048-886-7533 http://www.sonen.net sonen@bapren.jp  
Topics password → sorengo

全国壮年会連合 NEWS

第85号  
2015/2/28  
発行

日本バプテスト連合  
全国壮年会連合  
発行人:大城戸一彦  
編集人:井伊肇  
Topics password▶sorengo

神学校献金(神学生奨学金献金)郵便振替 00150-7-669605 日本バプテスト連合 全国壮年会連合事務局

途方に暮れながらも絶望してはならず…レントからイースターへ

平良仁志(日本バプテスト連合堺キリスト教会牧師)

「私達は四方から患難を受けても窮しない。途方に暮れても行き詰らない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。いつも、イエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちがこの身に現れるためである」(IIコリント4:8-10)。

パウロは、「肉体の棘」に加え、伝道者になったことで様々な苦勞をしたようです。ある時は「生きる望みを失い、死をも覚悟した」(IIコリント1:8)。そのパウロの様々な経験をふまえた証しの言葉を、レント(受難節)の日々に分かち合いたいと思います。

人生そのものにも、伝道・教会形成の諸奉仕を続けて行く途中にも、八方塞がりの事態が起きてきます。今までもあったし、多分、今後もあるでしょう。しかし、聖書を読み、イエス・キリストを信じて生きる者は、窮地に追い込まれはしない。主の助けで、何処かに出口はあるからです。

「途方に暮れる」こともある。人間関係、仕事、家庭の問題、思いがけない病、教会や壮年連合等の諸奉仕…。誰にも理解してもらえず、ただ独り立ち尽くしたままで迎える無力感と虚しさで眠られぬ夜。しかし、絶望しなくていい。キリストが共にいて下さる。

主に従って歩む時、「迫害」と表現せざるをえないような苦難もある。しかし、見棄てられた訳ではない。私達が、教会に集い、礼拝をささげ得ているという事実が、実感しようとすまいと、神の導きの中にありキリストに覚えられているということです。

「打ち倒される」ような思いがけない事も生じる。しかし、たとえ途中で倒されたように見えても、起き上がれないほどに決定的に滅ぼされる訳ではない。キリストつながってさえいれば、必ず起き上がり再び歩み出せる。その根拠・保証が、「私達はいつもイエスの死を体にとって(負って)います。イエスの命がこの体に現れるために」という言葉に示されています。イエスの死とは十字架の上での殺害、イエスの命とは復活の命です。十字架は、その時は、人々の目には神の敗北・無力・不在、何故こんなことが…と嘆き、叫びたくなるような事だったでしょう。しかし、十字架の出来事の裏側・まっ只中で、人間の側の経験や知識を超えて、神の救いの計

画は確実に着実に進められていました。神の祝福は既に始っていた。その証し・完成が復活という出来事でした。十字架は十字架で終わらない。十字架の後には、神の勝利としての復活があった。

主の復活は、復活という言葉でしか表現できないような、私達の思考や認識の枠組みを全く超えた豊かな出来事であり、死んだようになっていた弟子達を再び起こし力を与えて伝道へ遣わした出来事、神の真実や正義の勝利の現れでした。

ですから、復活は、単に個人の信仰にとって大切なばかりでなく、キリスト者や教会が平和や人権の諸課題などに取り組む時の支えです。「首相の靖国神社参拝」「集団的自衛権行使」「積極的平和主義」「憲法改悪」等々「戦争のできる国」への暴走が加速されている現実を前にして、人間的な思いや使命感、頑張りだけで事に当たっているならば、やがては虚しくなり投げ出したくなります。しかし、主は私達の小さな働きを必ず用いて、主の正義と平和を与えられる。

人生には失敗も挫折もある。けれど、それらは全て途中・途上のことでしかありません。だから、もうお終しまい、だめだ…などと思いつめたりする必要はない。必ず何処かに道がある。どんなに暗い闇でも、主に祈って心を落ち着けて見れば、必ず光がある。だから、いかなる場合でも、絶望しなくていい。

さらなる幸いは、この世の旅の終わりとされる死さえも、キリストにつながっている私達にとっては途中であり、むしろ、新たな真の命、永遠の命の始まりです。レントを過ごした私達は、間もなく喜びのイースターの朝を迎え、新年度も始まります。新たにされ続けて、主の教会形成伝道の働きや壮年会や壮年連合、とりわけ協力伝道の要である「伝道者養成」の奉仕に共に与っていきたくと思います。



—平和学習ツアー参加報告—

### <6・23「沖縄(命どう宝)の日」学習ツアーに参加して>

山田誠一（東京壮年連合会長、大井教員）

6月21日(土)～24日(火)までの4日間、女性連合主催の平和学習ツアーに、全国壮年会連合からの要請で参加させていただきました。

初めての沖縄ということと飛行機大嫌いの私にとって不安と使命感でいっぱいでした。

県庁前の集合から、歩いて「対馬丸記念館」へ。ここでツアー全参加者と対面し4日間のツアーが始まりました。以下に大まかな日程を紹介します。

- 6月21日(土)対馬丸記念館から那覇新都心キリスト教会にてオリエンテーション、映画「標的の村」鑑賞。
- 6月22日(日)沖縄バプテスト連盟の教会、日本バプテスト連盟の教会にて主日礼拝。私は西原新生バプテスト教会へ。寺沢征一牧師の説教と教員のおもてなしに感動。
- 6月23日(月)<沖縄戦追体験フィールドワーク> 8時、那覇新都心キリスト教会集合～がま20号、飯しあげの道～南風原文化センター～糸数壕～韓国人慰霊碑、平和の礎、平和記念公園、ひめゆり祈念資料館、平和集会参加～佐喜真美術館～普天間野嵩ゲート前でゴスペルを歌う会に参加。
- 6月24日(火)那覇新都心キリスト教会にて、沖縄

バプテスト連盟女性会との講演会・交流会。講師・・・三上智恵氏～小グループでの分かち合いと祈り会。ここでツアーは終わりました。(午後14時半頃)。その後、15時からの「沖縄から宣教を考える会」の学習会と総会に参加。19:20発のフライトで羽田に帰ってきました。

かなりハードなスケジュールでしたのでとても充実感がありました。沖縄戦追体験や見聞きしたことを通し、戦争の悲惨さ、特に地上戦の酷さを知りました。なのに今も沖縄の人々に大きな負荷を押しつけています。心からキリストの平和を祈り求める者とさせられたいと願いました。一人でも多くの方に沖縄へ行ってこの体験をしてほしい。心の底から共に熱く祈るために。今回、送り出してくださった全国壮年会連合と連盟国内宣教室と出会ったすべての人々に感謝します。



—神学生の証—

### <主は欠けの多いこの土の器をも用いたもう>

西南学院大学大学院博士前期課程2年 田宮宏介

皆様のお支えに守られて、学びの時間が過ぎようとしています。社会人だった時には仕事の忙しさもあって月に1冊の本もじっくり読むことがままならなかったのに、今度は週に数冊というペースで、本を読むことができる(読ませられる!?)この4年間は、試練でもありましたが、驚きと共に大きな喜びが与えられた時もありました。皆様のお支え、心から感謝申し上げます。

私は20歳でバプテストを受けた翌年、献身を決意しましたが、すぐには神学校の扉は開かれず、塾や予備校の講師をしながら時を待ちました。そしてやっと37年の時を経て、今年の4月から牧者として立つ運びとなりました。

「社会人として半人前のものがよく牧師をやろうと手を上げたものだ。さぞかし心臓にはいっぱい毛が生えていて、顔の皮はほかの人の何倍も厚いに違いない。」とつれあいは私に言いますが、「主は欠けの多いこの土の器をも用いたもう。欠けが多いからこそ使いみちがあると、主はお考えかもしれない。」などと、開き直って言い返しています。

社会には様々な問題あり、苦しめられ小さく弱くさせられている方々が多くおられます。そのような方々と「どうすれば寄り添えるのか」、このことは私の大きな

課題であります。太平洋戦争において大変な苦しみを受け、現在もなお米軍の存在に苦しむ、沖縄の人たちのことを知りました。沖縄の普天間基地前でゴスペルを歌い抗議しているグループの代表、神谷牧師の呼びかけに応じて福岡でもこの運動をやろうと思い、「ゴスペルアクションin福岡」を立ち上げ、一昨年の9月から天神のアメリカンセンター前で、毎月第4月曜日の午後6時から7時まで讃美歌を歌っています。当初数名で始まったこの活動に、今では20名を超える仲間が与えられており、本当に感謝です。沖縄にいてはできない事がある。福岡での行動はまさにそれだと、米軍に反対する沖縄の人たちが喜んでおられることは、活動の大きな励みになっています。平和をつくること(マタイ5・9)は、主イエスのご命令です。御言葉の宣教と実践、この両輪はどちらが欠けてもいけません。主イエスと再びまみえる日、「お前は、私の言ったことを守ったのか。」と問われるであろう緊張をもって、牧会に励んでいきたいと思っています。



シリーズ「献身者を起こす教会・伝道所、献身者を育む信徒運動」

## その5 「継」「接」そして「共」

日本バプテスト連盟常務理事 吉高 叶

### ● 継続と接続

私は、2008年度から2012年度まで宣教研究所の非常勤所員としてその働きに与る恵みをいただきました。宣教研究所は、牧師(教役者)の継続研修をその使命の一つとしています。ですから、牧師研修会のプログラムをよく検討し、カリキュラムに工夫を凝らして学び合いの場をつくってきました。説教演習も事例研究も、牧師の「力量」をアップする発想ではなく、「ほんとうに会衆に届いているか」「それは果たして教会形成につながったのか」という視点から目を離さないように取り組みました。参加している自分自身が、実に考えさせられ教えられ、励ましを与えられる日々でした。そして今も確信しています。牧師にはどうしても継続研修の場が必要であり、また時に自分を他者の目をもって捉え直す機会が必要だ、と。それに、自分の着想や経験だけでは、もうどうにも対応しきれないし、してはならない事実がこの社会と人々の生の場に起こっていますから、様々な分野の専門家のリソース(経験や知恵)に自らを接続していかなければ、誤ってしまうのです。学びを止めてしまうことは実に危険な事なのです。

### ● 牧師と信徒という両輪

ところで、こうした牧師(教役者)の継続研修に携わりながら、繰り返し思わされて来たことは、牧師の成長と信徒の成長は、(車輪の)両輪のように双方に求められている、ということです。片方だけの成長・成熟では教会という車両は前進できませんし、そもそも牧師と信徒の関係性によってつくられる教会で、片方だけの成長などということは成り立たないのです。

強い牽引力を持つ機関車が後部の客室を引っ張っていく。それが元気な教会のイメージであるなら、牧師のスピリット、伝道力、牧会力のアップこそが問題となるでしょう。実際、戦後数十年、あらゆる地域で果敢に取り組みされた開拓伝道～初期教会づくりの時代に、ほとんどの教会が牧師機関車型で運行してきたのも事実です。けれども植えられ、育まれ、根を下ろし、時を刻んできた信徒たち

が、やがて自ら教会を動かしていく原動力となり、牧師(教役者)と共に、そして兄弟姉妹と共に進んでいく、そこにバプテスト教会の形成という私たち特有の「運転の仕方」があるのです。

牧師の強力な伝道推進力に信徒たちが依存しているばかりだとしたら、信徒たちの自立的・主体的な形成力は鍛えられませんか、更に、「自分に依存してくる信徒」を牧師自身が欲してしまうという逆依存に陥ってしまいます。そうした関係は、往々にして、その「強力」な牽引車(者)の喪失と共に、急ブレーキがかかってしまうことになるのです。

「牧師の成長」を問題にするときに同時に「信徒の成長」を問い、「牧師の研鑽」を問題にするときに同時に「信徒の研鑽」を問う。常に「両輪の視点」を持って教会の成長を見つめ、互いに励むことがバプテスト教会の形成には欠かせません。

### ● 断・受・専・委を受ける

このシリーズでは、「断」「受」「専」「委」という四文字をキーワードにして、伝道者・献身者の「たたずまい」を考えて参りました。そして、最後に共に明確にしておきたのは、一人の献身者が神の前に懸命に取り組んでいく「断・受・専・委」、その人生を生きる場は教会であり、その人間を活かす場もまた教会である、ということです。そして、その教会とは、他ならぬ、一人ひとりの信徒、兄弟姉妹なのです。伝道者・献身者の「たたずまい」を、変わらぬ「たたずまい」として保たせ、守っていくことができるのは、信徒たちの祈りであり、信徒たちの協働なのです。

だからこそ、バプテスト教会は、しなやかでしぶとい教会として立ち続けることができますし、縦糸、横糸の折り合わされた布として、多様な人々を受け入れる可能性を発揮できるのです。✕

-----  
吉高叶先生には、大変お忙しい中、壮年のために5回シリーズで寄稿していただきました。感謝申し上げます。この記事が各教会・伝道所で信徒の学びのために用いられます様に願っています。(全国壮年会連合役員)